

里山で見られる植物たち

秋編

ゲンノショウコ



科名：フウソウ科 / 花期：7~10月

古来より胃腸病に効能がある薬草とされ、飲むとその効果がすぐ現れるといわれるところから名前が付けられた。花色が東日本では白、西日本では淡紅色のものが多く分布する。

コウヤボウキ



科名：キク科 / 花期：9~10月

日当たりのよい乾燥した林によく見られ、根本からたくさんの枝を出し集団を作る。茎は木質化していて硬い。高野山で茎を束ねてホウキの材料としたのでこの名がある。

ゴキヅル



科名：ウリ科 / 花期：8~10月

川べりや湿った草地に生える。ゴキヅルは“合器蔓”の意で、実が熟すと合器（ふた付きのお椀）のように真中から開いて、種子が現れるので名付けられた。

コミカンソウ



科名：コミカンソウ科 / 花期：8~10月

直径2~3mm程のオレンジ色がかった小さな実がミカンに似ていることから名付けられた。葉は夜になると閉じる就眠運動をする。海外では薬草として利用されることもある。

シロダモ



科名：クスノキ科 / 花期：10~11月

若葉には黄褐色の絹毛がある。果実が熟するのが一年後なので、秋には開花と赤い実を同時に見ることができる。葉の裏側がロウ質で覆われ白くなっているのが名前の由来。

シロバナサクラタデ



科名：タデ科 / 花期：9~10月

サクラに似た形の白い花を咲かせる。湿地や湿った草原に生える宿根草で地下に長い根茎を作る。湿生植物に分類されるため、ビオトープなどに使用することができる。

セン07ソウ



科名：キョウチクトウ科 / 花期：9～10月

日当たりの良い山野や道端の低木林の林縁に生える。名前は果実に付く綿毛を仙人のひげに見たてたことに由来する。毒があり茎や葉の汁がつくと皮膚炎を起こすこともある。

ツ08ボ



科名：キジカクシ科 / 花期：9月

鱗茎にはデンプンが多く含まれており、戦後の食糧が少ない時代に食べられたこともあった。球根をむくつつるつつるので“つる坊主”からツルボという名になったという説がある。

ツ09マメ



科名：マメ科 / 花期：8～9月

日当たりのよい野原や道端に生える。古代より栽培され品種改良したものがダイズになったといわれる。実は枝豆を小さくしたような形で、熟すと弾けて中の豆が飛んでいく。

ツ10ブキ



科名：キク科 / 花期：9～11月

海岸近くの岩場などに自生するが庭に植えられることも多い。名前の由来は、艶葉落（つやはぶき）からとする説や、厚葉落（あつはぶき）から転じたとする説などある。

ノ11ドウ



科名：ブドウ科 / 花期：6～7月

果実は果物のブドウのような房状にはならず、熟すと白、青、紫などに色づく。そのままの食用には不向きだが、焼酎などに漬け込み薬用酒として利用されることもある。

メ12ギ



科名：マメ科 / 花期：8～10月

日当たりのよい草地や川原などで見られる。茎は木質化して堅くなる。対馬や奄美地方、沖縄などではお盆のお供膳にこの茎で作った箸をそえる風習がある。

